

データサイエンス・ラボ

ラボの目的

- 学外の公開コンペティションに参加し、そこで課される実データに基づく課題を解決する。
- データ分析に慣れるとともに、戦略構築などに取り組み 知見の導出や問題解決力を高める。

1年間の活動報告

統計・Rの基礎知識

- ゼミ所属後は、統計に関する知識を深めるため、教科書を用いて統計学の基礎勉強を行った。各自担当する章を決め、統計解析ソフトRを使用したデータ分析の手法を学んだ。

統計グラフコンクール作品制作

- 入賞作品の分析から、それぞれ個人でテーマを決め、統計グラフコンクールの作品制作を開始した。制作過程の中で先輩方に何度も添削を行ってもらい、客観的な視点から自分の作品を振り返り、試行錯誤を繰り返すことで、より良い作品に仕上げていった。1作品が県の優秀賞に選ばれ、全国コンクールへ出展された。

和歌山県データ利活用コンペティション

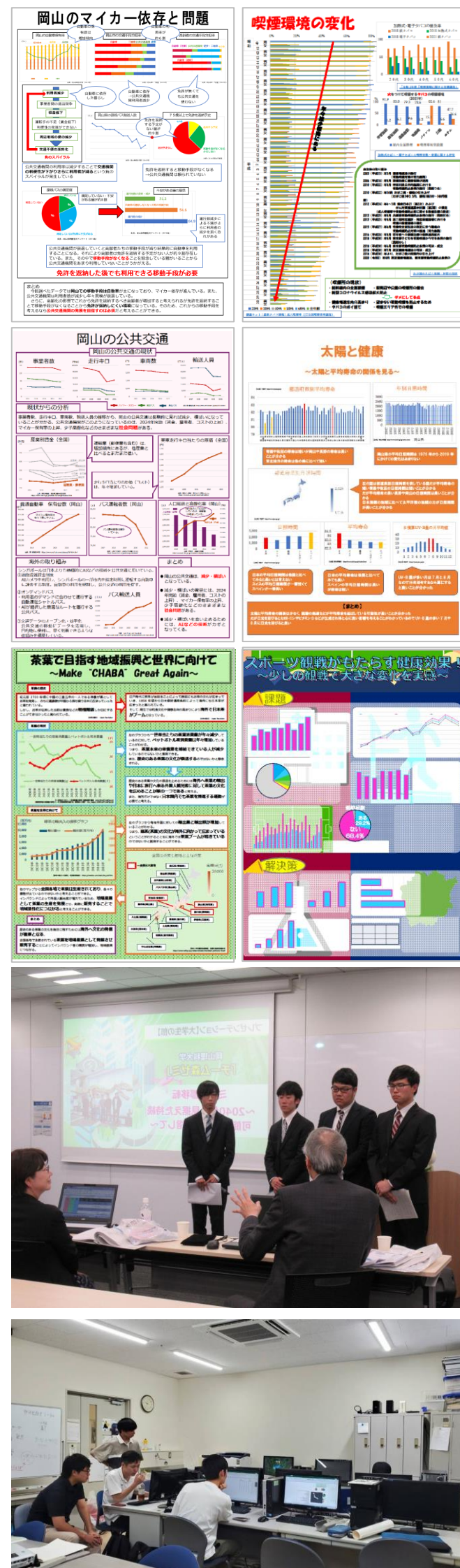
- 和歌山県データサイエンスコンペティションに参加した。「2040年頃の理想のまち」というテーマのもと、岡山県を例に、県庁機能の分散を提案し、9月から研究内容を決め、調査を行った。
- 10月に一次審査に応募、11月に一次審査の発表が行われた。私たちのチームは大学生40チームの中から上位7チームに選ばれ、12月に和歌山県で行われる最終審査会に参加することになった。
- 最終審査会には高校生7チーム、大学生7チームが参加し、14分の発表が行われた。
私たちは協賛企業賞（3位相当）を受賞した。

スポーツデータサイエンスコンペティション

- 11月からはスポーツデータサイエンスコンペティションに参加した。サッカーと野球のグループに分かれて研究を行った。月末に一次審査に応募し通過、1月に行われる最終審査会にポスター形式で参加することになった。
- 12月中旬からポスター制作、発表練習を始め、一月の最終審査会にオンラインで参加した。他大学の発表を見的过程中で、発表の仕方、研究方法など非常に勉強になることが多かった。

今後の計画・目標

私たちはこの活動の中で、多くのデータを分析し、データ分析の技術を向上させることができた。また、他大学の学生との交流を経て、勉強になることが多く、自分たちの課題を認識することができた。この経験を来年度の卒業研究に活かし、より良い研究を行いたい。



担当教員：森 裕一

所属学生6名、ポスター制作：山口颯大